



学校だより

きずな

【学校教育目標】 なりたい自分になる

熊野町立熊野第一小学校
令和8年8月25日
校長 梶 弘樹



なりたい自分に向かって

～楽しいこといっぱい2学期に～



2年生の町たんけんの様子

1学期末、終業式間近のある朝のことです。登校してきた男の子に校門で、「1学期も、もう終わるね。何が1番楽しかった？」と尋ねると、「2番目でもいいですか。」と返ってきました。どうして2番目なのかなどと思いながらも、「いいよ。」と答え、「いけんことして先生に怒られて、〇〇君が面白いことを言って、みんなで笑ったこと」と話してくれました。

「なるほど、そんなことがあったんだね。それで、1番は？」と私がしつこく尋ねると、「いっぱいあって選べん」

と答えてくれました。1番が選べないほど、たくさん楽しいことがあったなんて。私はとってもうれしい気持ちになりました。

振り返ってみると、色々な行事や学びのあった1学期でした。「なりたい自分」に向かって、その子なりのがんばりがたくさんありました。2学期も、子供たちにとって楽しいことがたくさんあり、「学校に行きたい」と思える学校であり続けられるよう、努めていきたいと思います。



～“やりたい”を見付けている子供はどんな姿？～

夏休みに、学校運営協議会の委員の皆さんと本校の教職員が集まり、熟議の会を行いました。熟議とは、学校と地域が「熟慮」と「議論」を重ねながら、よりよい学校づくりや課題の解決を目指して対話を深める取組です。

今回は、本校の今年度の重点である「“やりたい”を見付けている子供の姿って、どんな姿だろう」をテーマに話し合いました。

参加者からは、「自分の『好き』を自分の言葉で語れる子」「学校での出来事を家族や地域の人に生き生きと話せる子」といった意見が出されました。一人一人が思い描く子供の姿を出し合いながら、子供たちの成長を支えるために大切にしたいことについて考えを深めることができました。

また、学校の縦割り班活動で見られるような、高学年が低学年に自然と思いやりをもっ





て接する姿が、地域の行事でも見られるというお話もありました。学校で育まれている子供たちの温かな関わりが地域にも広がり、本校のよき伝統として受け継がれていることを、改めて感じた熟議となりました。

今回の熟議でいただいたご意見を、これからの教育活動に生かしながら、子供たち一人一人が“やりたい”を見付け、自分らしく成長していける学校づくりを、地域の皆さんとともに進めていきたいと思っています。

プールボランティアの皆さん、暑い中ありがとうございます

8月3日より、熊野町プール開放事業の熊一小の利用が始まりました。

暑い中、保護者ボランティアの皆様には、子供たちのためにご協力ありがとうございました。

ほぼ満員のバスにも関わらず、支援のおかげでスムーズに出発することができました。

子供だけでバスに乗ってプールに行くことが、ちょっとした冒険だった児童もいたようでした。「楽しかった」「来年も行きたい」とバスから降りて帰路につく子供たちはみんな笑顔でした。



コミュニティ・スクール研修会での交流

夏休みに、ふでりんホールに熊野町内6校の学校運営協議会の委員の方々と教職員が参加したコミュニティ・スクール研修会が行われました。各校からの実践発表では、学校運営協議会会長の東川さんと委員の猪野さんが代表して本校の取組を発表されました。

CS本部を中心に、コミュニティ・スクールの基盤を整え、児童の“やりたい”を支える、みんなが生き生きと活動する姿を目指し、取り組んでいる今の様子を報告してくださいました。熊一小の頑張っている姿やよさを改めて感じた時間となりました。

また、各校の取組を聞いて交流したり、地域学校協働活動アドバイザーの先生の講演を聞いたりしました。これからも子供たちのために、地域と学校がいろいろな課題解決や改善したいことに協働して取り組んでいけたらと思っています。ドリームメンバーへの登録も引き続きよろしくお願いします。

